

2022年2月16日
全日本空道連盟理事長
国際空道連盟理事長代行
高橋 英明

世界空道選手権大会ならびに世界空道ジュニア選手権大会について

以下は、2月18日にKIF加盟各国に送る予定でいる世界大会情報(エントリーシート等を含む)の頭書きです。これを、国際空道連盟(KIF)および世界大会の主催団体である全日本空道連盟の現時点での考えとして、ご理解ください。

空道の大会は、空道を修行するすべての者にとって、それに参加し優秀な成績を修めることが目的であるとともに、精神的および肉体的な鍛錬の貴重な場でもあります。そのような場の機会を会員に提供していくことが、KIFの大きな役割だと考えています。

しかしながら、COVID-19の出現後、2020年に予定していた世界ワールドカップを中止せざるを得ず、その後も国際大会の開催を見送らざるを得ない状況が続いています。最後に実施できた国際大会は、2019年9月に南米コロンビアで開催したパンナム大会でした。このままでは、世界レベルの大会の開催の間隔が大幅に空いてしまうことになることから、世界大会を前倒しして開催することを昨年3月に理事会で決定しました。この時には、COVID-19の収束を期待していましたが、残念ながらオミクロン株の出現後、未だに世界各国で深刻な感染の状況が続いています。

ただし、今後、日本をはじめ世界各国においては感染のピークアウトが進むと予想されることから、現時点で5月に予定されている世界大会の開催を諦めるべきではないと考えています。未曾有の状況下で開催する世界大会であり、様々な不自由が予想される中での開催とならざるを得ないことをご理解ください。開催時期を延期しても、確実に状況が好転するかどうかはわかりません。たとえ参加国が少なくなることになっても、早期に世界大会という場を提供することを重視したいと考えています。これは、故東創始者の強い希望でもありました。世界を見ると、既にピークアウトしている国、これからピークを迎えようとしている国があります。以前の世界大会通信(KIF公式サイトのNEWSに、これまで世界大会通信1~3を発信)において、5月に予定している世界大会の開催可否判断を4月15日までに行うことを伝えていましたが、この後の2ヵ月で、状況が大きく改善していることを願っています。空道世界選手権大会において、皆様とお会いできることを願っております。

一部の記述を補足しますが、当初(2021年3月)は、東創始者の強い希望により、空道の聖地とも言える代々木第二体育館がほぼ5年ぶりに使用できることになった2022年1月に第6回世界大会を開催することを、KIFの理事会に諮りました。多くの理事はこれに賛成しましたが、一部の理事の反対もあったことから、若干延期して5月ないし6月に開催することとしました。できるだけ早期に世界レベルの大会を提供したいというKIFの意思であったと考えてください。

KIFの公式サイトでは、昨年12月以降、World Championships News(世界大会通信)を月に1度の頻度で発信しています。海外からすると、日本や東京の状況がわからないだろうという

ことで、日本や東京における感染状況の情報を含めて発信してきたものです。1月に発信したNewsでは、次の事項を世界大会の開催条件および参加条件とする予定であるとして示しました。

- ・ 入国時に求められる隔離期間が3日間以内に緩和されていること。
- ・ 各国の選手およびスタッフ全員は、出国72時間以内のPCR検査で陰性が証明されていること。
- ・ 日本に入国時に実施される検疫をパスすること。
(パスできない場合は、隔離または入院が求められるため、世界大会には参加できない)
- ・ 各国の選手およびスタッフ全員が、同じ宿泊施設を利用すること。
- ・ 個々人の行動計画の提出が求められ、自由に観光することは許可されないと想定すること。
- ・ 各国の代表選手は階級ごとに最大1名とし、ホスト国である日本の代表選手は階級ごとに最大2名とすること。
- ・ 各国の代表選手は、KIFの会員であること。

また2月に発信したNewsでは、入国後は毎日検査を実施することも伝えました。特に海外の選手にとっては厳しい条件となりますが、国際大会の開催にあたっては必須です。

また、4月半ばを、開催可否判断の最終期限とすることを予定している旨を発信しています。現時点の入国規制状況では開催できないこととなりますが、世界的にCovid-19の感染状況はピークアウトしつつあり、また規制を大幅に緩和しはじめた国もあります。日本も外国人の入国規制緩和の検討を始めつつあります。まだ5月の世界大会の開催を諦める状況ではないと考えています。

今後、5月の開催は無理だと判断した場合については、11月に仙台で開催することを視野に入れています。この場合、代表選手をどう決定するのか、ジュニアについては年齢カテゴリー等をどうするのか、5月に予定していた大会をどうするのかなどの課題があり、これらについても考えはありますが、5月の開催を諦めているわけではないので、まだ発表すべきタイミングではありません。

選手や指導者の皆さんにおいては、ほんとうに世界大会が安全に開催されるのかどうか、不安があると思いますが、KIFおよび全日本空道連盟の考えを理解していただき、準備を継続していただくことを、切に願います。

以上